

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和 5 年 1 1 月 1 2 日 (日)
1. 初期支援 (初めの関わり)	メンバー	山下、金丸、田淵、田中、森本、竹内、尾河、北川、内田、西井、玉本、小林、松本

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0 人	10 人	3 人	0 人	13 人

前回の改善計画	多くの知り得た情報について報告が必要か否か優先順等や、家族に伝えるべき内容なのか等の判断するスキルを身につける必要がある。 ・訪問時の情報の伝え方の工夫が必要。 ・何気ない会話などの中に大事な情報が含まれているので、会話に興味を持つ事を心がける。
前回の改善計画に対する取組み結果	・情報の確認や共有することについては意識し出来ていると思うが、ときに記載忘れなどがある程度。 ・朝礼や反省会を行うことで意識の向上にはつながっている。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	1	10	1	1	13
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	1	9	2	1	13
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができていますか?	0	10	2	1	13
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	0	8	4	1	13

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・ミーティング等で事前に情報を共有し初期情報を得ている。 ・本人との会話の中から必要な情報を得て、慣れていただくように声掛けを意識的に行っている。 ・本人の情報についての共有は、日々の反省会や朝礼でできている。 ・聞き取った情報をケースに記録し共有できるようにしている。 ・サービス内容に関しては、定例会議で問題提示し全員で話し合い統一をしている。 ・ご家族に伝えるべきことは連携ノートに記載するとともに、送迎時にご家族に報告もしている。 ・ケアマネジャーがいるので、直接情報を得ることができる。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・知り得た情報について報告を忘れていることがある。 ・訪問した際に周りの変化に気づけていないことがある。 ・ケース入力時に人によっては内容が浅く、大切な情報が記入されていないこともある。 ・出会える家族や出会いにくい家族があり、十分に関係が構築できていない。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
・情報を得る努力はできている。必要な情報をいかに伝え統一していくかの工夫が必要。 ・訪問時の情報は訪問ノートにて伝達している。しっかりと確認をしてから訪問にできよう心掛ける。 ・新規の情報についてはタイムリーに伝わるように、ケアマネも早めに情報を出していく。 ・ケースの入力はポイントを押さえた記録になるように心掛ける。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和 5 年 11 月 12 日 (日)
2. 「～したい」の実現 (自己実現の尊重)	メンバー	山下、金丸、田淵、田中、森本、竹内、尾河、北川、内田、西井、玉本、小林、松本

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか？	0 人	6 人	6 人	1 人	13 人

前回の改善計画	・担当ケースのケアプランを読む。 ・職員が意識を持って利用者と積極的に関わりが持てるようにする。具体的な目標を掲げる。
前回の改善計画に対する取組み結果	・担当する利用者のケアプランの把握はできている。 ・利用者との関りはしっかりと出来ているが、具体的な目標を挙げるのが難しかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	「本人の目標 (ゴール)」がわかっていますか？	0	8	4	1	13
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか？	0	8	4	1	13
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか？	0	5	7	1	13
④	実践した (かかわった) 内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか？	0	8	4	1	13

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・担当の利用者を決め、毎月モニタリングも行い把握するようにしている。 ・毎月のモニタリングを通して、目指すべき目標や支援について把握し、意識して日々関わっている。 ・利用者さんのその日の様子について、反省会で共有し対応を考えることができている。 ・「歩行カード」で意欲的に頑張っておられる方については支援でき声掛けもできている。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・担当以外の利用者の方のケアプランや本人のしたいことの把握が十分にできていない。 ・ケアプランを読んで対応していく事はなかなかできていない。 ・利用者さんの「目標」は何かを理解できていない。 ・本人の目標より家族の意向が先行されてしまうことがある。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
・担当の利用者のケアプランをしっかりと読む。 ・大きな目標ではなくとも、日々の中での目標に取り組めるように利用者との関りをしっかりと持ち、利用者の声を大事にしていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日

令和 5 年 1 1 月 1 2 日 (日)

3. 日常生活の支援

メンバー

山下、金丸、田淵、田中、森本、竹内、尾河、北川、内田、西井、玉本、小林、松本

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0 人	11 人	1 人	1 人	13 人

前回の改善計画	・ケアマネやナースの指示が無いと出来ないこともあるが、職員一人一人が気づき変化を見つけたら見逃さないようにする。 ・利用者の「なにかちょうだい」の声が出る前に、休みの間の様子を聞くなど、対話をする時間を上手く見つける工夫を職員自身で行う。
前回の改善計画に対する取組み結果	・利用者の変化に対して気づきはできているし対応もできている。 ・利用者より聞き取った内容がまだ共有されていない部分がある。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか?	0	1	11	1	13
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	7	4	2	0	13
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?	0	8	4	1	13
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	3	7	2	1	13
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?	1	8	3	1	13

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・利用者の変化について、職員皆気づく視点は持っている。 ・気づいた事は日々のミーティングで共有できている。 ・本人の変化に合わせてミーティングで共有し、介護方法を統一している。 ・浴槽の改修を行い、どなたでも入浴ができるようになった。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・本人の変化に気づいても、それを総合的に考察することができていない。 ・本人の以前の暮らしについての情報を十分に聞き取れていない。 ・変化に気づいても次の対応に繋がっていないことがある。 ・皆で考えて知恵を出す場（日々の反省会や会議）が生かされず、話して終わりになっていることがある。 ・一部介助がほぼ全介助（服や靴下の着脱や上げ下げ）になっていることがある。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
・気づいた変化について小さなことでも伝えていける、その声を拾う事の出来る職場作り。 ・利用者との対話を多くして、今までの自分史や強み弱みの聞き取りの中で本人の思いを知る。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和 5 年 11 月 12 日 (日)
4. 地域での暮らしの支援	メンバー	山下、金丸、田淵、田中、森本、竹内、尾河、北川、内田、西井、玉本、小林、松本

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0 人	2 人	10 人	1 人	13 人

前回の改善計画	・利用者の生活を知る様な積極的な関わりを行う事や、地域資源にも目を向けることが出来るような勉強会を行う。 ・利用者の自宅での暮らしについてもう一度聞き取りをする。
前回の改善計画に対する取組み結果	・会話など本人とは行っているが、家族からの聞き取りが不十分である。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?	0	2	9	2	13
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか?	2	4	6	1	13
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?	0	3	9	1	13
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?	0	3	8	2	13

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・ご本人から会話の中で日々の暮らしの様子を聞くよう心掛けている。 ・送迎時など、ご家族等から話を聞くよう心掛けている。 ・通いが休みの日の過ごし方を聞く事で、暮らしぶりを理解することに繋がっている。 ・連携ノートのご家族からのコメントがあれば、目を通すようにはしている。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・ご本人からの聞き取りが難しい方などはご家族より聞き取るようにしているが十分ではない。 ・地域資源について、どのようなものがあるのか情報収集不足である。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
・特に担当している利用者に関しては、訪問しご家族より話を聞く時間を作っていく。 ・地域資源とは？を考える時間を作っていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和 5 年 11 月 12 日 (日)
5. 多機能性ある柔軟な支援	メンバー	山下、金丸、田淵、田中、森本、竹内、尾河、北川、内田、西井、玉本、小林、松本

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0 人	2 人	8 人	3 人	13 人

前回の改善計画	・フォーマルサービスのみならずインフォーマルなサービスにも目を向けることが出来る様に勉強会を行う。 ・その場その場での判断が行えるように、特に主任・副主任にはスキルアップが出来る様に自ら学ぶ。
前回の改善計画に対する取組み結果	・柔軟な支援はできていた。 ・何がインフォーマルなサービスなのかあまり理解できていない。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?	0	8	3	2	13
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	7	4	2	0	13
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか?	4	5	4	0	13
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	4	6	2	1	13

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・ご本人に必要なサービスをその時その時で判断し提供している。 ・ご本人やご家族の状況に応じてサービスの内容や回数の変更を行っている。 ・本人の生活に必要な支援（配食・送迎・買い物サポート）などにはどのようなサービスがあるのか、できるだけ理解するようしている。 ・地域の活動（おたっしや教室等）に参加しているかは本人より聞き取りをしている。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・インフォーマルなサービスについて、知ること活用することがあまりできていない。 ・本人と地域との関係性（老人会・隣組）はなかなか知ることができない。 ・ご家族の思いや要望と、職員の考えとのずれ（買い物 1,000 円ある⇔1,000 円しかない・・・） ・その場での判断に迷うことがある。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
・竜王町のインフォーマルなサービスについて「何か？」から考えてみる。 ・指示がないとできていないことがあるので、判断力を高めていく。 ・	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和 5 年 11 月 12 日 (日)
6. 連携・協働	メンバー	山下、田淵、金丸、田中、森本、竹内、尾河、北川、内田、西井、玉本、小林、松本

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	0 人	9 人	2 人	2 人	13 人

前回の改善計画	・他事業所や町関係の会議には参加必要な職種（ケアマネジャー等）が今後も継続して参加する。 ・サービス担当者会議には、可能な限り担当職員が参加をしていく。 ・他職種連携の自主研修会に、職員自ら積極的に参加をしていく。 ・広報「みゆきやま」の年2回の発行の継続。
前回の改善計画に対する取組み結果	・必要な職種での会議は参加できているが、自主研修にはなかなか参加できていない。 ・担当者会議には担当職員が参加できるように調整をしている。 ・みゆきやまも年2回発行できている。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	その他のサービス機関（医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所）との会議を行っていますか？	4	2	3	4	13
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか？	1	4	2	6	13
③	地域の各種機関・団体（自治会、町内会、婦人会、消防団等）の活動やイベントに参加していますか？	0	0	0	13	13
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか？	0	0	0	13	13

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・年2回のみゆきやまの発行はできている。 ・サービス担当者会議には担当職員が参加するようにしている。 ・地元消防団さんや日赤奉仕団さんは来所され、毎年の連携は取れている。 ・	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・コロナ禍であり地域の行事や地域の方との交流は少なかった。 ・自主研修に参加をしたいと思っても、日中の人員が不足している場合にはあきらめていることもある。 ・多職種連携の研修会（ぼとぼちねっと・三方よし等）に積極的には参加できていない。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
・管理者・ケアマネジャーとして参加必要な会議には継続して参加をしていく。 ・サービス担当者会議には可能な限り担当職員が参加をしていく。 ・多職種連携や自主研修会には、職員自ら積極的に参加をしていく。 ・広報「みゆきやま」の年2回の発行の継続。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和 5 年 1 1 月 1 2 日 (日)
7. 運営	メンバー	山下、田淵、金丸、田中、森本、竹内、尾河、北川、内田、西井、玉本、小林、松本

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	3 人	6 人	3 人	1 人	13 人

前回の改善計画	・利用者、家族、介護者からの苦情や意見を真摯に受け止め、運営に反映をしていく。 ・町包括には小規模多機能の特性を理解していただいているが、なかなか理解しにくい内容なので、今後も継続をしてあらゆる機会には説明を行っていく。
前回の改善計画に対する取組み結果	・苦情や意見については真摯に受け止めている。 ・小規模多機能居宅介護についての理解がまだ進んでいないと思う。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計（総人数）
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができていますか？	1	8	3	1	13
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか？	2	6	4	1	13
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか？	1	8	3	1	13
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか？	1	5	5	2	13

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・運営推進会議にて地域の方より意見を伺うようにしている。 ・利用者や家族からの意見や苦情には、すぐに適切に対応をしている。 ・苦情と言われない意見も苦情として受け止め、職員間で共有している。 ・	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・地域と協働の取り組みが殆ど出来ていない。 ・地域の方が山かがみについてどのように思われているのかわからない。意見を聞く機会が殆ど無い。 ・地域との交流の場が少なく、参加の機会が無い。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
・利用者・家族からの意見をしっかりと受け止め対応していく。 ・送迎時や訪問時には地域の方への挨拶を基本にし、山かがみを知って頂く事から関係の構築を始める。 ・小規模多機能居宅としての在り方を再度検討していく。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和 5 年 11 月 12 日 (日)
8. 質を向上するための取組み	メンバー	山下、金丸、田淵、田中、森本、竹内、尾河、北川、内田、西井、玉本、小林、松本

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	3 人	5 人	2 人	3 人	13 人

前回の改善計画	・ 参加しやすい町のキャリアアップ研修への参加を促していく。
前回の改善計画に対する取組み結果	・ 町のキャリアアップ研修には、述べ 5 名が参加

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	研修（職場内・職場外）を実施・参加していますか	1	6	1	5	13
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	2	6	0	5	13
③	地域連絡会に参加していますか	0	0	0	13	13
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	9	2	2	0	13

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・ 外部研修等はできる限り参加できるよう取り組んでいる。 ・ ヒヤリハット・介護事故は細めに即座に共有して改善に努めている。交通ヒヤリも記載している。 ・ 研修内容は復命書の回覧や定例会議での報告で共有している。 ・ ZOOM での研修参加も何とか出来たことで、苦手意識が軽減した。 ・ 認知症研修やキャラバンメイトの活動に参加している。 ・ ヒヤリハットや事故報告書で振り返り、対策をすることで再発防止に取り組んでいる。 ・	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・ 指示を受けての研修へは参加できているが、自主研修は一部の職員の参加になっていることが多い。 ・ 資格取得に向けての勉強や研修への取り組みができていない。 ・ 地域の連絡会への参加はできていない。 ・ キャリアアップ研修に参加できていない。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
・ いろいろな研修があるので、自身で積極的に参加をするようにする。 ・ ヒヤリハットや介護事故は気づきがあるから記載ができることを確認し、意識の向上につなげていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和 5 年 11 月 12 日 (日)
9. 人権・プライバシー	メンバー	山下、田淵、金丸、田中、森本、竹内、尾河、北川、内田、西井、玉本、小林、松本

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	4 人	7 人	2 人	0 人	13 人

前回の改善計画	・「常に誰かが聞いている」という意識を持って業務に携わる。 ・「静かな声の日」の基本を再確認して、日々心にとめて業務に携わる。 ・スピーチロックも身体拘束に当たることを再度確認する。
前回の改善計画に対する取組み結果	・意識はしているが、スピーチロック「ちょっと待って」が出てしまっている。 ・他者の話に興味を持って聞いている人がいることをもっと意識しないといけない場面があった。 ・

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	身体拘束をしていない	13	0	0	0	13
②	虐待は行われていない	13	0	0	0	13
③	プライバシーが守られている	4	8	1	0	13
④	必要な方に成年後見制度を活用している	0	0	0	0	0
⑤	適正な個人情報の管理ができている	7	5	1		13

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・「静かな声の日」だけではなく、できるだけ頭の上を超える大きな声の会話とならないよう心掛けている。 ・山かがみで知り得た情報は他言しないなど、プライバシーを守るようにしている。 ・利用者の身に危険がない限り自由に活動できるようにしている。 ・日々のケアで身体拘束に当たらないか考え介護を行っている。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・スピーチロック「ちょっと待ってください」をしている時もある。 ・個人に関わることを、利用者さんの聞こえるところで話していることがある。 ・排泄確認の時「パット変えた?」「ドボドボやった・・・」とやり取りしている職員もいた。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
・常に誰かが (利用者・職員) が聞いているという意識をもつ。 ・トイレのなかで「おしっこ出た?」という会話も扉の外に聞こえているということに気づく。 ・山かがみで知り得た情報は、外には出さないことを再確認していく。 ・大きな声で話さず、利用者の近くで穏やかな口調で話すよう心掛ける。	

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 雪野会	代表者	理事長 藤居 眞	法人・ 事業所 の特徴	地元の高齢者福祉の拠点と期待を寄せられてできた、公設民営の特養の運営を長年行ってきた法人である。地元への貢献を運営理念に掲げており、竜王町にとって初めての小規模多機能型居宅介護事業所を設立してもうすぐ10年目となる。当地域はこれまで高齢者福祉サービスが希薄な場所であったこともあり、高齢化が進む地元住民にとっては安心できる一つの材料となっている。竜王町を代表する鏡山に抱かれた広々とした場所に位置し、利用者からは景色の良さに満足の声が上がっている。
事業所名	小規模多機能 山かがみ	管理者	山下 京子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	4人	人	1人	(1)人	0人	3人	0人	10人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・事業所評価について、項目が難しく感じるところも多くありますが、一つ一つの項目に対して職員全員で一緒に考える・一緒に振り返る事が大事であると考えます。次年度に向けても同じように職員全員での取り組みを元に、事業所のあり方を見つめていきたいと考えています。 ・項目に関しては職員全員が関わることで、ケアマネジャーが主に関わるところが有り、その点に関しては評価が難しい部分もあります。本来、担当者会議等への参加は居宅のケアマネジャーが招集を行い、事業所の介護主任や相談員が参加を行うことが多いのですが、山かがみでは担当職員が参加できるよう工夫をしています。参加することでご家族や行政職員・他職種の方と出会う機会があり、担当の方の支援のあり方を主になって考えることが出来るからです。この工夫は他のデイサービス等ではないことだと思いま	・6・10月に各職員が自己評価を行い、11月に事業所評価を行った。 ・担当職員を決め、毎月のモニタリングや会議への参加を行った。 ・事業所評価については事業所としての評価をしたいと思いましたが、職員一人一人の取り組みに対しての評価結果となりました。新人の職員は「出来ていない」の評価が多くなってしまった。	・スタッフ全員が真摯に取り組まれている姿勢が感じられます。 ・報告等でスタッフが丸となり取り組んでいることがうかがえる。 ・スタッフ一同が評価できていることが一番。 ・改善計画をもっと具体的にすると、スタッフの方も取り組みやすいと思います。 ・お疲れ様です。頑張ってくださいと感じます。 ・朝礼、反省会にて意識向上を図る点は良い。 ・「ほとんどできていない」の項目に1名とある。利用者の家族には不安を感じる。新人のためか職種が違うためかの区別にもよるが。 ・計画は具体案を提示すること。 ・取組結果には、できたのかできなかったのかの結果の記載が必要。結果についてもそれでよかったのか悪かったのかまで評価が必要。	・毎年6月、10月には各職員が自己評価を行い、11月事業所自己評価を行う。 ・どの職種の職員であっても職員間の連携を密にし、利用者の情報共有を行う。方法としては、日々の申し送りノートや朝夕の確認及び反省会、月1回の定例会議の場をもって共有を行う。 ・事業所自己評価の各項目について、関係する職種が違うこともあるが、小規模多機能居宅のメリットとして職員全員で「できている」に向けて取り組んで行く。

	すので継続をしていきます。 ・自己評価で「出来ていない」との記載が多い事について指導は？とのご意見もありましたが、調理担当職員であれば関わらない項目も有り、そのような評価になったと思われます。 次年度は事業所として取り組んでいるのか取り組めていないのかとの視点で評価記載を行っていききたいと思います。 ・このように小さな取り組みを積み重ねて事業を行っております。 今後も職員一人一人が主となって責任を持って事業を行っていきけるよう取り組みたいと思います。		・日々の職務中において、目標を意識できるサポートをして頂きたい。 ・「ほとんどできていない」の自己評価をしたスタッフへの対応は？ ・運営、職員として意見が言えないのか、言えていないのか気になります。 ・「あまりできていない」の方も結構おられるので、ぜひ次回は「できる」になるよう普段から課題を意識した行動が大切かなと思います。 ・質問内容が分かりやすく評価がしやすい内容で改善計画が立てやすい。 ・利用されている方を一番に考えて、心を込めて支援を願いたい。 ・「ほとんどできていない」職員さんがおられますが、他のスタッフから見た場合はいかがでしょうか？他のスタッフからも「ほとんどできていない」であれば改善が必要ですが、そうでなければ担当部所ごとに自信を持ってほしい。	
B. 事業所の しつらえ・環境	・現在コロナ禍でもあり、施設内の備品等及び送迎車内に至るまで清潔を保つよう努力を行っている。今後も今行っている清潔な環境作りの継続をしていく。 ・屋外の環境整備は毎年3地域の日赤奉仕団の方にお世話になっています。職員の手の届かない草引きや窓ふき、困っている部分などにも目を向け助けていただいています。鏡の日赤奉仕団の方に	・事業所内からコロナ陽性者を出すことなく5類移行になりました。継続して感染予防に努め、清潔が保てるようにしていきたい。 ・コロナ禍ではありましたが、日赤奉仕団(3地域)の方が来所され、屋外の環境整備をして下さいました。鏡の日赤奉仕団は2回来て下さり、綺麗にしてくださいました。	・風呂の(浴槽の改修)改善はわかりました。 ・通常の事業所内状況はわかりにくい。 ・事業所内は清潔な環境作りをされ、居心地がいい空間になっている。 ・特に問題になる点はない。 ・NO4については難しい事案だと思いますが、「鍵がかかっている場合」の対策はありますか？	・日々の掃除や消毒。春と秋の2回、全職員参加のワックスがけ、換気扇や下水升に至るまで環境整備を行い、清潔で居心地の良い施設の継続を行います。 ・屋外の環境整備は日赤奉仕団の方に助けて頂いています。特に鏡の日赤奉仕団には無理をお願いして年2回の草引きをしていただいています。継続して助けていただけるように、地域の方との関係

	は無理をお願いして、夏と秋に草引き等して頂きました。また、「私たちの地域の方が利用しているから・・・」と言って、遠い地域の日赤奉仕団の方が来て下さっています。年1回ですが、地域の方との関わりを今後も大切に継続していきたいと思っています。		・一度利用者さんがおられる時間帯に見学できれば。 ・あたたかい雰囲気（環境）作りは大切かと思います。 ・運営推進会議にお伺いしても、いつもきれいにされています。 ・日赤奉仕団の方々には感謝です。 ・地域との関りは今後増々重要になってくるはずです。	作りを行います。
C. 事業所と地域のかかわり	・前回と同様、町内に一つしかない小規模多機能居宅として、再開されれば地域のおたっしや教室での啓発や地域の行事に可能な範囲で参加をしていく。 ・広報「みゆきやま」の発行は内容も検討して、年2回の発行を継続する。 ・民生委員との会議には毎年参加をしています。広報活動までは出来ていませんでしたので、次年度は時間を頂けるよう積極的な働きかけを行って行きます。	・コロナ禍でもあり、おたっしや教室などの場へ啓発に出ることは出来ませんでした。 ・広報「みゆきやま」年2回の発行はできた。 ・民生委員との会議への参加は出来ましたが、小多機の啓発は出来ませんでした。	・挨拶がないのは相方共だと思います。まず顔を合わせない。 ・地域の行事やイベントに参加しないのは、地域からの働き掛けもないのだと思います。 ・通常の職員及び事業所についての判断はしにくい。 ・地域の方も相談に来られたとの話を聞いている。 ・なかなかコロナ禍前の状況にすぐ戻ることは難しいですが、積極的な介入や働き掛けが必要かと思います。地域の方に顔を覚えてもらうことも。 ・特に問題ない。 ・言うは易しなのですが、月に1回程度カフェ（地域を交えた）が出来ないかなあ〜。コロナのこともあります。 ・「山かがみ」は近隣では知られていると思える。これは職員さんの啓発努力もある。しかしながら、事業活動促進は常に行う必要がある。 ・地域の一つの拠点になっていると思う。	・事業所も10年目を迎えます。地域の方と一緒にイベントが出来ないか検討したいと考えています。カフェ開催も検討していきます。 ・まだまだ啓発が足りないと感じています。職員が地域に住む利用者と一緒に、おたっしや教室やカフェなどに参加出来るように取り組みたいと考えています。

			・地域の方が山かがみについてどのように思われているかの意見を聞く機会が殆どない。それについて、山かがみを知ってもらう広報について、行政としてできることがあれば考えていきたいです。 ・民生委員さん以外の方で、地域の方と一緒に取り組めるような行事を企画できると良いですね。健康推進委員さんとの協働などいかがでしょう。 ・利用された方は「山かがみ」は良いと聞きますが、他の事業との差異が地域住民にはよくわかっていないのでは？	
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	・各民生委員さんとの顔の見える関係作りの構築の継続。 ・コロナ禍で有りなかなか利用者の方の外出を頻回に行う事は出来ませんが、可能な限り季節を感じていただける外出や行事を取り入れていきたい。 ・ご本人の自宅での生活をもっと知り、地域との関わりが途切れないような支援が出来る様にしていきたい。	・サービス担当者会議に民生委員さんの参加をお願いすることが少なかった。 ・季節を感じるドライブ外出はできたが、人数を少なくしての外出であった。 ・利用者個々に対して、本人・家族より聞き取りを行なっている。その中で地域との関わりについても聞く様にしている。	・少ないスタッフでのサービスの提供には、職員さんの努力によるものが大きいです。無理なされずに。 ・但し、このようにして下さっているからこそ、私たちは信用できます。 ・季節の行事など再開されていた。 ・利用者の方に関しては、地域を巻き込んだ形で支援されているかと思います。 ・日中に来ても施設が開放されており訪問しやすい。 ・利用者さんの行動については判断しにくい。 ・分からないと答えたのは、地域が利用者を把握できていないからだと思います。 ・職員が利用者のどこまで立ち入るか、難しいことだと思います。 ・利用者さんは事業所だけの行動	・施設周りの散歩。秋に植えたチューリップや湖岸の桜・なんじゃもんじゃの木・紅葉見学などたくさん外出をしていきたい。 ・ボランティア（演芸や演奏）の受け入れも再開し、交流を深めたい。 ・職員が利用者の住む地域のイベント（おたっしや教室やカフェ等）に、一緒に参加が出来る様に計画したい。 ・地域の民生委員や近隣の方とも良い関係が築けるように、先ずは挨拶からしっかりと行っていく。

			になりがちだが、かといって地域とのかかわりも難しい。職員さんが大変。 ・報告等でイベント参加等を聞いている。 ・ちょっとしたことでも、地域のキーパーソンの方と繋がりを持って頂けるといいかと思います。 ・連携ノートを十分に活用されると良いと思う。家族さんは必ず目を通されるのでしっかり書き込みましょう。 ・個々は地域の協力も必要かと思っています。「山かがみ」だからこそ出来る出来ないは置いていても、かかわりを持とうとして下さっていることは感謝です。各一人一人の気持ちは大きな塊となります。	
E. 運営推進会議を活かした取組み	・委員の選出に関しては施設のある鏡地区を中心に検討をしています。 ・新しい委員には事業所を理解していただけるよう様、会議の内容をわかりやすく説明を行い、活発な意見交換が出来るように配慮する。 ・管理者だけの参加ではなく、介護職員の参加もできる限り行っていく。 ・評価項目については会議の中で説明が出来る様に、会議内容の工夫を検討します。	・鏡地区より、自治会長と民生委員に参加して頂いた。 ・管理者、主任は参加したが、介護職員の参加はほぼ出来なかった。 ・事業所自己評価の内容と事業所評価の内容が一緒であればわかりやすいのではとの意見もあった。	・出来る出来ないのメリハリを付けてされると少し楽になるかもです。全てするには大変かと・・・。 ・問題点ばかりではなく、良かった点・事例なども共有しましょう。 ・会議には地域のいろんな方が参加しておられ、自分としても地域の現状を知ることが出来る貴重な場となっている。 ・委員は会議だけの意見であって効果が不明。 ・「こうあるべき」との考え方をする人もありますが、そこは会議の中でお分かり頂けても良いのかもと思っています。 ・運営推進会議に職員さんも是非参加して貰って下さい（一人でも	・各委員のより活発な意見交換が出来る様に配慮を行う。 ・会議には管理者、主任だけではなく職員参加も積極的に行う。 ・今まで地域の方と一緒に対応した事例などを伝え、「〇〇な時は△△の対応をしていただけるとうれしい」等、地域との協働に繋げたい。

			可)。 ・機械浴の設置等、会議からの意見を形に繋げていると思う。 ・利用者さんがいかに過ごしやすい事業所にしていくか職員さんが最も大変と思うが、会議の意見が各種方面から出ていることから前向きに検討願いたい。	
F. 事業所の 防災・災害対策	・年に一度、消防訓練には地元鏡の消防団の協力を継続して依頼していく。 ・災害が起こりうる状況が事前に把握でき場合は、営業を休止するなどの対応を早めに行う。 ・台風時などに営業をやむなく行っている場合は、鏡集落センターに設置の災害対策所におられる、自治会長や消防団団員に状況の連絡を入れて協力を得る事が出来る様に、運営推進会議を通して日頃より連携を取っていく。	・鏡消防団の方にはご協力を頂き消防訓練を行った。この件は 12 月の広報りゅうおうにも「地域連携型防災訓練」として掲載されました。 ・台風での 1 日営業休止があった。訪問が必要な方への対応は行った。 ・台風時等で自治会へ協力を得る事はなかった。	・災害時事業所を、頼りにしたい気満々です。但し、地域との連携は必要かと思います（ボランティアスタッフ等）。 ・感染症対策などの対応等、十分に対策されていた。 ・災害についても避難経路、誘導等確認が出来た。 ・計画や地域との連携も図られていると思います。 ・BCPが必要になった現状で取り組んでいると思う。 ・出来れば消防訓練に運営推進委員も参加しては？ ・防災訓練はやられていますか（地震時及び避難訓練）。 ・訓練が出来ていることは素晴らしいです。但し、営業を休止するとお困りになる家族や本人は今まではなかったのでしょうか？やむなく開所しても早めの安全確保は必須です。自治会さんも自治会内で手いっぱいも考えられます。 ・BCPについては常にアップデートが必要なため、法人として取り組む必要があります。定期的に点検しましょう。 ・事業所の防災・防災対策につい	・年に一度、消防訓練には鏡の消防団に継続して協力を依頼していく。 ・地震を想定した避難訓練も年に一度は計画し実施していく。 ・ハザードマップで日野川の氾濫で浸水被害が想定されるところに事業所が建っています。そのことを踏まえて、早めの対応（事業の休止等）を取っていきます。 ・一人暮らしや高齢世帯の方などは、災害時地域がどのように対応されるのか等の聞き取りを行い、地域との情報共有を取っていききたい。 ・BCPに関しては作成が義務付けられています。定期的な見直しをしていきます。 ・災害発生時には地元鏡自治会と協力体制が取れるように、運営推進会議の中で確認していく。

			て、フローチャートやマニュアルは存在するのか？全職員は把握しているのか？気になります。 ・本日が阪神淡路大震災当日であり、能登半島地震もある中、現実的な備えを改めて検討する必要がある。 ・火災は現実にはあってはならないが、利用者の方は避難が優先すると思う。また地震の対処は必要と考える。 ・災害時の自治会との連絡網を毎年更新する必要あり。	
--	--	--	--	--

